

台東区 水害ハザードマップ

保存版 令和8年度版

「いざという時に」この地図をご活用ください

避難する場所を確認しておきましょう

荒川氾濫の避難先	内水氾濫・神田川氾濫・高潮の避難先	土砂災害の避難先 ※一部地域のみ
----------	-------------------	---------------------

災害発生時はもちろんのこと、日頃の防災学習にも役立つ！

台東区 防災アプリ「台東防災」

右の二次元コードからインストールをお願いします。

「この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都版(2,500分の1)の地形図を利用して作成したものである。(承認番号)7都市版(第2版)21号)」

高潮水害ハザードマップ

～高潮の発生により河川から越水した場合～

【浸水想定区域】
高潮水害ハザードマップ(浸水想定区域)について
この地図は、東京都が作成した「高潮水害想定区域」を基に、台風や低気圧により高潮が発生した場合の浸水想定区域、浸水深、および避難場所などを示したものです。
想定している台風の強さは、上陸時中心気圧 910hPa、最大風速風速半径 75km、移動速度 73km/hを基にシミュレーションを行っています。

凡例
浸水した場合に想定される浸水深(ランク区分)
5.0m～10.0m未満
3.0m～5.0m未満
1.0m～3.0m未満
0.5m～1.0m未満
0.5m未満

想定浸水深の目安
浸水深の色の見方
5.0m～10.0m未満
3.0m～5.0m未満
1.0m～3.0m未満
0.5m～1.0m未満
0.5m未満

あなたがとるべき避難行動は？

あなたが住んでいる場所は、浸水が想定されていますか？

- いいえ → 避難の必要がありません。荒川氾濫、神田川氾濫、内水氾濫、土砂災害に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周りに低い地形などの場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。
- はい → 自宅は2階以上ですか？
 - いいえ → 避難情報が発令された場合、災害の危険があるので、緊急避難場所へ避難してください。
 - はい → 避難情報が発令された場合でも在宅避難(2階以上の避難)をしてください。引き続き荒川氾濫にも警戒してください。

在宅避難

荒川以外の水害では、区内で2階以上に浸水することはないと、ほとんどの地域で12時間以内に水が引きます。道路は冠水の可能性があり、避難場所はプライバシーの確保が難しいなどの課題があるため、在宅避難をお願いします。

在宅避難のポイント

- 日頃から3日以上の水や食料を備蓄
- アプリなどで自宅周辺の浸水深を確認
- テレビなどで防災気象情報の収集

備蓄品

いざというときには、ライフラインの途絶などにより在宅避難を行うために必要なものが手に入らない可能性があります。日頃から準備しておくことで、災害時も平常時に近い生活を送ることができます。特にローリングストックはおすすめです。

飲料水・食料

- 飲料水
- お米やアルファ米
- レトルト食品、缶詰、乾物、調味料

食事に必要なもの

- 紙皿・紙コップ・割り箸
- 食品用ラップ
- 缶切り・万能ナイフ
- ポリタンク
- カセットコンロ、予備のボンベ

生活用品

- ブラシ・口腔ケア用品
- 衣類(季節に応じたもの)、毛布
- ブルーシート(雨漏れ防止)
- 工具類(パール、ハンマーなど)
- ガムテープ+油性ペン
- ポリ袋(小・中・大)・手提げ袋
- 新聞紙(多用途に使えます)

その他

- タオル
- 乾電池
- ろうそく
- ダンボール
- 養生テープ
- 携帯トイレ

最低3日分(できれば1週間分)の備蓄品を用意しましょう。

ローリングストックで日常的に備蓄しましょう

ローリングストックは、普段の食材を多めに買い置きしておき、使った分を買い足して災害に備える方法です。この方法であれば、備蓄品の鮮度を保ちながら、災害時も日常に近い生活を送ることができます。

非常持ち出し品

貴重品

- 現金
- 身分証明書
- カード類
- 予備のキー(自宅や車など)

飲料水・食料

- 飲料水(持ち運べるもの)
- 食料(乾パン、缶詰など)

情報を得るためのもの

- 携帯ラジオ
- 携帯電話などの充電器
- 乾電池(予備)
- 筆記用具、メモ帳

衛生用品

- マスク
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 携帯トイレ

生活用品

- 懐中電灯(電池入り)
- 手巾・皮手袋
- タオル・風呂敷
- ポリ袋
- 万能ナイフ
- レインコート・雨具・簡易防寒具
- 箸替え・スリッパ
- 使い捨てカイロ

●避難する時に持ち出すものは、いざという時に備え、リュックサックなどにまとめておきましょう。
●メガネや常備薬、粉ミルクなど、個人や家庭によって必要なものは遠いまで、自分にとって必要なものを準備しておきましょう。

避難情報(避難を促す情報)〈台東区が地域を指定して発令〉

風水害時に災害が発生するおそれのある場合、区は、警戒レベルを付した避難情報を発令します。避難情報は、気象庁などから発表される防災気象情報に基づき、区が発令するものです。

警戒レベル	避難情報等	とるべき行動
レベル5	緊急安全確保	すでに災害が発生している状況 命を守るための最善の行動を！
レベル4	避難指示	危険な場所から 全員避難！
レベル3	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等は避難！

荒川氾濫が想定される場合
警戒レベル3の発令前でも自主的広域避難情報を発表する可能性があります。
浸水想定区域の外へ避難してください。

防災気象情報(天候や河川の情報)〈気象庁などが発表〉

防災気象情報は、住民の避難行動に対応した情報ですが、台東区に直接関係ない情報もあります。避難する場合は、防災気象情報だけでなく、区が発令する避難情報を基に、適切な避難行動をとってください。

河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮	(警戒レベルごとに)住民がとるべき行動
1級河川などの大河川以外の氾濫	低地の浸水や大河川以外の氾濫	急傾斜地の急崩れや土石流	海水面上昇や波の打上げによる浸水	命の危険 直ちに安全確保！
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報

〈警戒レベル4までに危険な場所からかならず避難！〉

警戒レベル4相当	警戒レベル3相当	警戒レベル2	警戒レベル1
レベル4 氾濫危険警報	レベル3 氾濫警報	レベル2 氾濫注意報	早期注意情報
レベル4 大雨危険警報	レベル3 大雨警報	レベル2 大雨注意報	
レベル4 土砂災害危険警報	レベル3 土砂災害警報	レベル2 土砂災害注意報	
レベル4 高潮危険警報	レベル3 高潮警報	レベル2 高潮注意報	

避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など

避難行動を確認(避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど)

災害への心構えを高める

■令和8年5月下旬から新しい防災気象情報で運用しています。

- 防災気象情報(河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮)を5段階の警戒レベルにあわせて発表します。
- レベル4相当の情報として危険警報を新設しました。
- 情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表します。(例：レベル4大雨危険警報 など)

気象庁 キキクル ホームページ

台東区 危機・災害対策課 (5246) 1092
令和8年5月発行 令和8年登録第10号

土砂災害ハザードマップ

～土砂災害が起きた場合～

東京都は、土砂災害防止法に基づき、平成31年3月に谷中地域において、土砂災害警戒区域2箇所、うち特別警戒区域1箇所を指定しました。また、令和元年9月に池之端地域において、区域をまたぐ指定区域のうち、土砂災害警戒区域3箇所を指定しました。このハザードマップは、大雨などの影響により土砂災害の発生が予想される場合や実際に発生した場合に、区民の皆様が「命を守る行動」をとっていただくために作成したものです。いざという時に備えて、日頃から避難先や避難方法などを確認しておきましょう。

索引図

谷中 池之端 台東区

避難の流れ

土砂災害における避難行動は原則立ち退きになります。特に避難行動に不安のある方はなるべく豪雨になる前の早い段階で避難することをお勧めします。避難指示などは発令されていなくても、気象情報を参考に自ら避難の判断をすることも重要です。また、いざというとき安全に避難行動がとれるように、避難経路などを確認しておきましょう。

緊急避難場所
土砂災害を回避するための避難する施設
施設名 所在地
谷中小学校 谷中2-9-16
忍岡小学校 池之端2-1-22

※玄関や寝室などの持ち出しやすい場所に、非常用持出品を用意しておきましょう。

※緊急避難場所以外でも避難することができます。安全な場所(塙或・知人宅や宿泊施設・勤め先など)を、避難先として各自確認しておきましょう。

凡例
がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
自主避難場所/緊急避難場所/避難所
避難方向

もしもの時に備えよう(浸水被害の軽減)

①家屋への浸水を軽減する
浸水が浅い場合は、家屋にあるものを使って家屋や地下駐車場の浸水を防ぐことができます。
●移動可能な家電製品は高い場所へ移動しましょう。
●自動車は早めに浸水を免れる場所へ移動しましょう。
●アルバムなど思い出の品も持ち出せる場合は移動しましょう。

②家財の被害を軽減する
重要なものは浸水を免れる場所へ移動しましょう。
●貴重品や重要書類は、浸水を免れる高い場所に移しましょう。
●移動可能な家電製品は高い場所へ移動しましょう。
●自動車は早めに浸水を免れる場所へ移動しましょう。
●アルバムなど思い出の品も持ち出せる場合は移動しましょう。

③水道・電気・ガス・トイレなどライフラインの停止に備える
ライフラインの停止が長期に及ぶ可能性があります。ライフラインが復旧するまでの数日間、飲料水や食料などの備蓄を行いましょう。
●備蓄の一部も浸水を免れる場所へ移動しましょう。
●数日分の着替えとして、衣類を持ち出しておきましょう。

プランターとレジャーシート
土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用し、浸水を防ぎます。

止水板
出入り口を長い板で塞いで浸水を防ぎます。

情報の収集

台東区防災アプリ「台東防災」
災害発生時にはもちろんのこと、日頃の防災学習にも役立つ「台東区公式アプリ」です。防災アプリでは、ご自身のお住まいの浸水深を確認することができます。そのほかにも下記のような機能があります。

- 災害発生時に
 - 避難施設の開設状況の確認やGPSにより避難経路を案内
 - 避難情報などの発令区域をマップ上で確認
 - GoogleやLINE、メールを用いた身近なかたとの安否確認
 - 防災行政無線の放送内容などの区からのお知らせを確認
- 日頃の防災学習に
 - 防災マップやハザードマップなどの防災ガイドを確認
 - 避難行動フローをチャットボット形式で確認

ご自身のお住まいの浸水の浸水深を確認できます

スマートフォンの操作が苦手な方はこちら
防災行政無線
屋外スピーカーから緊急情報を放送します。(大雨や建物に被害となり、聞こえにくいことがあります)

自動電話応答サービス
防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。24時間365日 ☎ 03-5246-4057

テレビデジタルデータ放送
台東区が発信する避難情報などは、テレビのデジタルコンテンツ(リモコン)から「地域の防災情報」を選択すると、文字情報で確認することができます。

土砂災害とは

土砂災害には、土石流、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)、地すべりの3つの現象があります。台東区ではこれらのうち、台風や大雨、長時間の雨による地盤のゆるみ、地震などの影響で、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)が発生するおそれがあります。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)とは、斜面の土地が急激に崩れ落ちることをいいます。

土砂災害警戒区域(通常：イエローゾーン)
土砂災害が発生した場合に、住民などの生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
●がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)の指定範囲
-傾斜度が30度以上で高さ5メートル以上の区域
-急傾斜地の上部から水平距離が10メートル以内の区域
-急傾斜地の下部から急傾斜地の高さの2倍(50メートルを超える場合は50メートル)以内の区域

土砂災害特別警戒区域(通常：レッドゾーン)
土砂災害警戒区域の内側にあって、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民などの生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制などが行われます。

右のマークは音声コード[Uni-Voice]です。裏面の左下にも同様のマークがあります。スマートフォン専用アプリ[Uni-Voice Blind]などで読み取ることで、音声でハザードマップに関する情報が確認できます。